取扱説明書〈TD〉

この度は、当社製品をお買い上げいただきありがとうございました。
この時計を末永くご愛用いただくため、本取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用下さいますようお願い申し上げます。
尚、この取扱説明書はお手元に保管し、必要に応じてご覧下さい。

安全上の注意

ご使用になられる方や他の人への危害および財産の損害を未然に防ぐため、次の表示で区分されている内容につきましては必ずお守り下さい。

⚠警告…この表示の欄は、表示内容と異なった使い方をしたときに『死亡または重傷などを負う可能性が想定される』内容です。

⚠注意…この表示の欄は、表示内容と異なった使い方をしたときに『人的傷害または物的損害のみが発生する可能性が想定される』内容です。

製品の特徴

①この時計は、アナログ水晶発振式時計です。
②現在時刻を、時針・分針・小秒針で表示します。
③時刻表示の他に、カレンダー機能（日付）とストップウォッチ機能（1／5秒単位ー60分計）及びアラーム機能（12時間制）が付いています。
④ストップウォッチ機能においては、スプリットタイム（スタートからある区間までの途中経過時間）も計測できます。
⑤電池寿命が終わりに近づくと、小秒針が2秒間隔で動いて知らせてくれます。（電池寿命切れ予告装置）

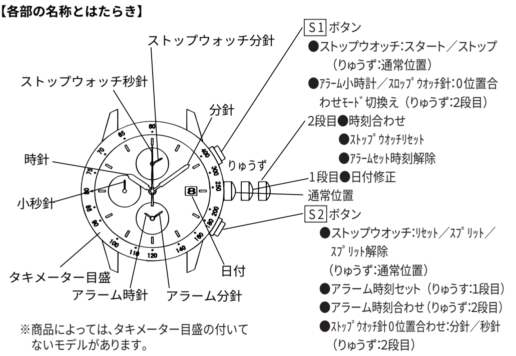
製品仕様

1. 水晶振動数……32,768Hz（1秒間の振動数）
2. 携帯精度……平均月差±20秒（5℃～35℃において腕につけた場合）
3. アラーム精度…±1分
4. 作動温度範囲…－5℃～＋50℃
5. 駆動方式……ステップモーター方式
6. 機　能……【時刻機能】時針・分針・小秒針（1秒ステップ運針）
   【ストップウォッチ機能】ストップウォッチ分針（1分ステップ運針、60分／1周）
   ストップウォッチ秒針（1／5秒ステップ運針、60秒／1周）
   【アラーム】時針・分針（1分ステップ運針）12時間制
7. 付加機能…… 秒針規正装置、リセットスイッチ、積算計測、スプリット機能、電池寿命切れ予告装置
8. 使用電池…… SR927W　1個
9. 電池寿命…… 新しい電池組込み後、約3年
   ただし、1日にストップウォッチを2時間、アラームを20秒間以内で、それぞれを使用した場合です。

※製品仕様は改良のため、予告なく変更する場合があります。

使用方法

【各部の名称とはたらき】


ストップウォッチ分針
ストップウォッチ秒針
分針
時針
小秒針
りゅうず
タキメーター目盛
アラーム時針
アラーム分針
日付
S1 ボタン
●ストップウオッチ:スタート／ストップ（りゅうず:通常位置）
●ｱﾗｰﾑ小時計／ｽﾛｯﾌﾟｳｵｯﾁ針:0位置合わせﾓｰﾄﾞ切換え（りゅうず:2段目）
2段目●時刻合わせ
●ｽﾄｯﾌﾟｳｵｯﾁﾘｾｯﾄ
●ｱﾗｰﾑｾｯﾄ時刻解除
1段目●日付修正
通常位置
S2 ボタン
●ストップウオッチ:ﾘｾｯﾄ／ｽﾌﾟﾘｯﾄ／ｽﾌﾟﾘｯﾄ解除（りゅうず:通常位置）
●アラーム時刻セット（りゅうず:1段目）
●アラーム時刻合わせ（りゅうず:2段目）
●ｽﾄｯﾌﾟｳｵｯﾁ針0位置合わせ:分針／秒針（りゅうず:2段目）

※商品によっては、タキメーター目盛の付いてないモデルがあります。

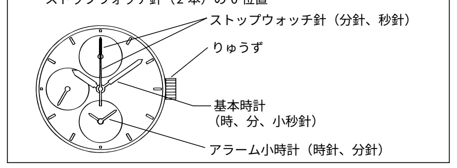
【ねじロック式りゅうずモデルの場合】
商品によっては、りゅうずをケースにねじ込むことでロック（固定）できる構造のモデルがあります。このタイプの時計については次の操作方法をご参照下さい。
①時刻合わせ・カレンダー合わせ時は、先にりゅうずを左に回して、ねじをゆるめてから行って下さい。
②時刻合わせ・カレンダー合わせ終了後は、りゅうずを押しながら右に回して、ねじを止まるところまでしっかりねじ込んで下さい。

【ねじロック式ボタンモデルの場合】
商品によっては、ボタンリング（ボタンの外周部）をねじ込むことでロック（固定）できる構造のモデルがあります。このタイプの時計については次の操作方法をご参照下さい。
①ボタン操作の際は、先にボタンリングを左にまわして、ねじを止まるまでゆるめてから行なって下さい。
※充分にゆるめない場合、ボタン操作ができない場合があります。必要以上に強く回さないで下さい。
②ボタン操作終了後は、ボタンリングを右に回して、ねじを止まるところまでしっかりねじ込んで下さい。
※必要以上に強くねじ込まないで下さい。

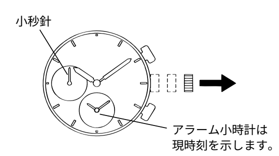
時刻合わせ・ストップウォッチ針の0位置合わせ

この時計は、時刻合わせ（基本時計とアラーム小時計）とストップウォッチ針の0位置合わせは、共にりゅうず2段目で行ないます。
そのため、時刻合わせ等でりゅうずを2段目に引き出した際は、下記の3つの項目を確認または合わせ直してから、りゅうずを押し込んで下さい。

- 基本時計の時刻
- アラーム小時計の時刻
- ストップウォッチ針（2本）の0位置



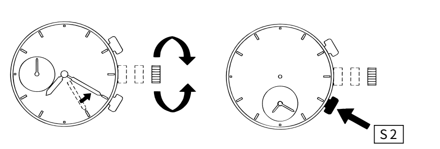
【時刻の合わせ方】（基本時計とアラーム小時計）
①りゅうずを2段目まで引き出すと小秒針が止まります。小秒針は0秒の位置（12時方向）に止めて下さい。
※ストップウォッチ計測中の場合は、ストップウォッチが強制的にリセットされます。
※アラーム小時計がアラーム時刻を示している場合（=アラームが設定されている）は、アラーム小時計が早送りして現時刻を示します。



②りゅうずを回して、「基本時計」の時刻を合わせます。

この時合わせる時刻は、今から数分後の時刻に合わせることをお勧めします。その理由は、この後「アラーム小時計の時刻合わせ」さらに「ストップウォッチ針の0位置合わせ」を行ないます。
すべての合わせが終わってから、りゅうずを押し込むことになるので、数分先の時刻に合わせておく必要があります。

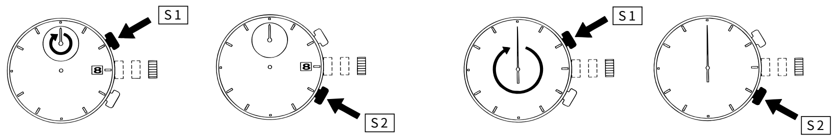
※日付が変わるところが午前0時です。午前・午後を間違えない様に合わせて下さい。
※この時、正確に合わせるために分針を正しい時刻より4～5分進めてから針を戻して合わせて下さい。



③次にボタン S2 を押して「アラーム小時計」の時刻合わせをします。
「②」で合わせた基本時計の時刻と同じ時刻に合わせます。
ボタン S2 を押し続けると、早送りします。
※アラーム小時計には、午前・午後はありません。

④次に、2本の「ストップウォッチ針」の0位置をあわせます。
ボタン S1 を約2秒押し続けて下さい。ストップウォッチ分針が1周回ります。
ボタン S2 を押して、ストップウォッチ分針を「0分位置」に合わせて下さい。
ボタン S2 を押し続けると、早送りします。

次に、ボタン S1 を約2秒押し続けると、ストップウォッチ秒針が1周回ります。
ボタン S2 を押して、ストップウォッチ秒針を「0秒位置」に合わせて下さい。
ボタン S2 を押し続けると早送りします。

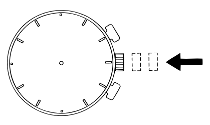


⑤既に合わせ終わったところを再度合わせる場合には、この順番で合わせ直すことが出来ます。

ボタン S1 を約2秒押し続け
アラーム小時計の合わせ：アラーム小時計が12時間回って修正状態であることを示します。ボタン S2 を押して合わせます。
ボタン S1 を約2秒押し続け
ストップウォッチ分針の0位置合わせ：ストップウォッチ分針が1周回って修正状態であることを示します。ボタン S2 を押して合わせます。
ボタン S1 を約2秒押し続け
ストップウォッチ秒針の0位置合わせ：ストップウォッチ秒針が1周回って修正状態であることを示します。ボタン S2 を押して合わせます。
ボタン S1 を約2秒押し続け

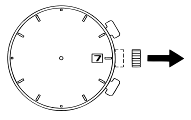
※何回でも合わせ直すことが出来ます。

⑥すべての合わせができたら、時報と同時にりゅうずを押し込みます。
※基本時計の時刻とアラーム小時計の時刻が同じ時刻になっているか確認してりゅうずを押し込んで下さい。
※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL. 117が便利です。

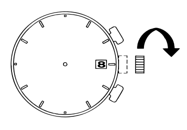


日付の合わせ方

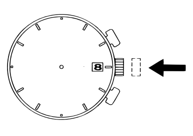
・時刻合わせができてから、日付を合わせて下さい。
①りゅうずを1段引き出します。
（この時計のりゅうずは2段に引き出せます。
※この状態で、ボタン S2 を押すと、アラーム時刻の設定または修正になるので、必要がない場合はボタン S2 を押さない様にご注意下さい。



②りゅうずを右に回して今日の日付に合わせます。



③りゅうずを押し込みます。

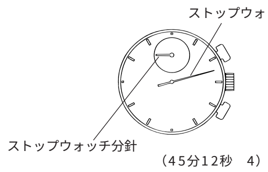


⚠注意
※次の時間帯を針が示している時は日付の切換え作動中となりますので日付合わせは避けて下さい。
午後9時～午前1時
この時間帯に日付合わせをしますと、翌日になっても日付が変わらないことがあります。
この時間帯以外で日付を合わせて下さい。

★月末の日付修正について
小の月は日付の修正が必要になりますので、翌月の1日になりましたら、日付を「1日」に合わせて下さい。

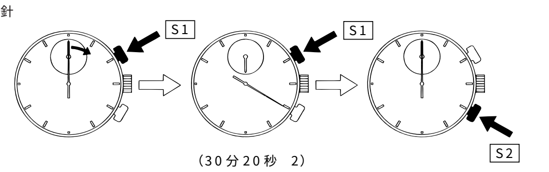
ストップウオッチの使い方

・1/5秒単位、60分計のストップウオッチです。
・12時間まで計測は続けられます。12時間経過で自動的にストップしリセットします。
・センターのストップウオッチ秒針と、12時位置のストップウオッチ分針で読み取ります。
・スプリット機能があります。
<ストップウオッチの読み方>
2本のストップウオッチ針（ストップウオッチ秒針、ストップウオッチ分針）で計測時間を読み取ります。



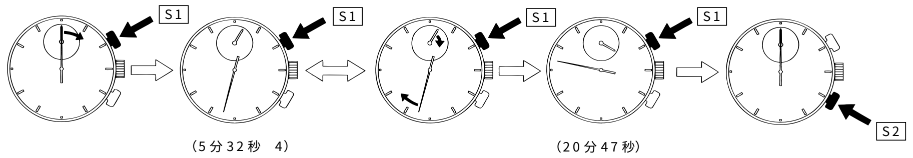
（45分12秒　4）

◎**通常の使用方法（ボタン操作順序：S1→S1→S2）**
スタート → ストップ → リセット



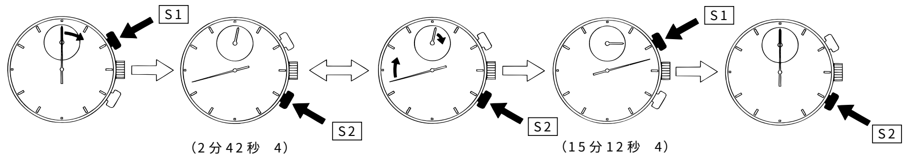
（30分20秒　2）

◎**時間計測を積算で行なう場合（ボタン操作順序：S1→S1←→S1→S1→S2）**
スタート→ストップ→ 再スタート→ストップ→リセット
何度でも繰返すことができます。



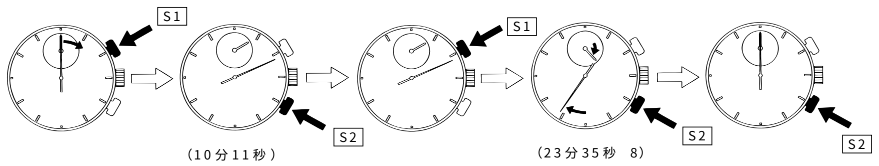
（5分32秒　4）　（20分47秒）

◎**途中経過（スプリットタイム）を計測する場合（ボタン操作順序：S1→S2←→S2→S1→S2）**
スタート→スプリット→スプリット解除→ストップ →リセット
何度でも繰返すことができます。



（2分42秒　4）　（15分12秒　4）

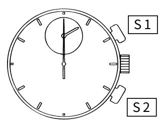
◎**2人のタイムを計測する場合（ボタン操作順序：S1→S2→S1→S2→S2）**
スタート →1人目がゴール→2人目がゴール　→表示　→リセット
1人目のタイム　2人目のタイム
この間計は、1人目のタイムを示しています。



（10分11秒）　（23分35秒　8）

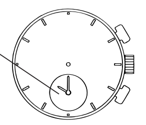
<ストップウオッチ針の0位置について>
・ストップウオッチをリセットしても、ストップウオッチ針が0に戻らない場合、
0位置合わせが必要です。
・ストップウオッチ針の0位置合わせは、基本時計の時刻合わせと同時に行ないます。
(→時刻合わせ・ストップウオッチ針の0位置合わせを 参照)

◎**ストップウオッチのリセット方法**
・ストップウオッチ針が動いている場合、
①ボタン S1 でストップ
②ボタン S2 でリセット
・ストップウオッチ針が止まっている場合、以下の3つの場合があります。
●ストップ状態で止まっている
①ボタン S2 でリセット
●スプリット表示で止まっている（ストップウオッチは計測中）
①ボタン S2 でストップウオッチ針が早送りし、その後計測状態になる。
②ボタン S1 でストップ
③ボタン S2 でリセット
●スプリット表示で止まっている（ストップウオッチはストップ状態）
①ボタン S2 でストップウオッチ針が早送りし、その後止まる。
②ボタン S2 でリセット



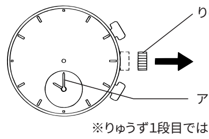
アラームの使い方 （ワンタイムアラーム）

・セットした時刻に1回だけ鳴る、「ワンタイムアラーム機能」です。鳴鐘後、セットした時刻はキャンセルされます。
・11時間59分先までの時刻に1分単位でセットができます。
アラーム小時計は、アラームがセットされていない場合は、現在時刻を、アラームがセットされている場合は、アラーム時刻を示します。



<アラーム小時計の時刻合わせについて>
アラーム小時計の時刻合わせは、基本時計の時刻合わせ等と同時に行ないます。
(→時刻合わせ・ストップウオッチ針の0位置合わせ　を参照)

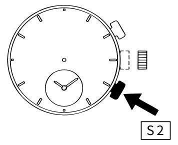
◎**アラーム時刻セットのしかた**
①りゅうずを1段目に引き出します。


りゅうず1段目（アラーム時刻セット）
アラームがセットしてある場合、アラーム時刻を示したままです。

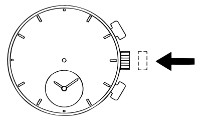
※りゅうず1段目では、ストップウオッチの操作はできませんので、ご注意下さい。

②ボタン S2 を押して、アラーム時刻をセットします。
押し続けると、早く進みます。

※セットしたい時刻を通りすぎてしまった場合、さらに進めて合わせて下さい。
アラーム時刻が現時刻と一致すると、「アラーム設定なし」の状態になります。
そのとき、ボタン S2 を押し続けて現時刻に一致させた場合は、早送りしている針が、一旦止まります。
アラーム時刻をセットする場合は、ボタン S2 を1回離して改めて押しセットして下さい。
※アラームが設定できる時刻は、現在の時刻が午前10：08とすると、午後10：07までの時刻になります。



③セット終了後は、りゅうずを押し込んで下さい。
※引き出したままでは、アラームは鳴りません。



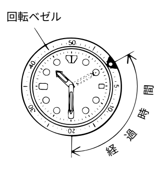
◎**鳴っているアラームを止めるには**
アラーム設定時刻になると20秒間アラーム音が鳴り続けます。鳴っているアラームを途中で止める場合は、ボタン S1 , S2 のいずれかを押して下さい。
※ストップウオッチ針が運針中の場合、通常のアラーム音とは異なりますが、異常ではありません。
また、アラーム鳴鐘中にストップウオッチ操作（ボタン S1 またはボタン S2 ）をしても、鳴り止めとして機能し、ストップウオッチ操作にはなりません。鳴り止め後は、通常の操作ができます。アラームは1回鳴ると自動的に設定がキャンセルされます。

◎**アラーム時刻の修正またはキャンセルする方法**
・セットしてあるアラーム時刻を修正したい。
・セットしてあるアラームをキャンセルしたい。
①りゅうずを1段目に引き出して下さい。
②ボタン S2 を押して、アラーム時刻の修正ができます。押し続けると早送りします。
・キャンセルするには、ボタン S2 を押してアラーム時刻を現時刻の時・分と一致させて下さい。
また、簡単な方法としてボタン S2 を押し続け早送りさせると、現時刻で早送りが止まるので、そこでボタン S2 を離す方法があります。
③修正またはキャンセルできたら、りゅうずを押し込んで下さい。

回転ベゼルの使い方

商品によって、回転ベゼル付きのモデルがありますので、お買い求めの時計をご確認の上、正しくご使用下さい。
回転ベゼルを回して、▽マークを分針に合わせて下さい。
ある時間が経過した後に分針の示す回転ベゼル上の数字を読むことにより、経過時間を知ることができます。
また、目的時刻に合わせておくことにより、残り時間を知ることもできます。回転ベゼルは逆回転防止機構の付いた、1分間隔のラチェット装置が付いていますので、ショックによる不用意な回転を防止し、また目盛のセットがしやすくなっています。

※商品によっては、逆回転防止機構及び1分間隔のラチェット装置が付いてない物もあります。



上図は、10時10分から20分経過したことを示しています。

タキメーターの使い方

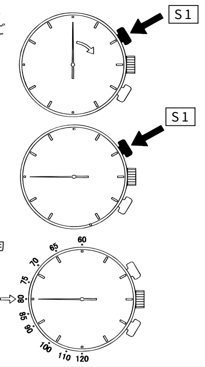
商品によって、ベゼルまたは文字板にタキメーター（TACHYMETER）の目盛りが印刷されているものがありますので、お買い求めの時計をご確認の上、次の操作方法をご参照下さい。
タキメーターとは、一定区間（1km）を通過するのに要する時間を測定して平均時速を知ることができる機能です。また、単位時間（1時間）あたりの出来高を知ることもできます。

①スタートまたは製品の作り始めと同時にボタン S1 を押します。

②1km地点または製品作り終わりと同時にボタン S1 を押します。

③ｽﾄｯﾌﾟｳｵｯﾁ秒針が指しているタキメーター（目盛り）の数字を読み取ります。（この例の場合、タキメーター数値は80を示しているため、平均時速80kmまたは1時間あたり80個の出来高ということになります。）

※タキメーターの測定時間は1分以内に限ります。
1分を越えた場合については、平均時速または1時間あたりの出来高の読み取りができませんのであらかじめご了承下さい。

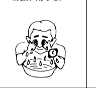


お取り扱いにあたって

（1）防水性能について

⚠警告

①日常生活用防水（3気圧）の時計は、洗顔等には使用できますが、水の中に入れてしまうような環境での使用はできません。
②日常生活用強化防水Ⅰ（5気圧）の時計は、水泳などには使用できますが、スキンダイビングを含めて全ての潜水には使用できません。
③日常生活用強化防水Ⅱ（10・20気圧）の時計は、スキンダイビング（素潜り）には使用できますが、空気ボンベを使用するスキューバー潜水及びヘリウムガスを使用する飽和潜水などには、使用できません。

タイプ ＼ 使用条件		●一時的にかかる水滴（洗顔・雨など）	●水泳・ヨットなどの水上スポーツ、漁業・農業などの水仕事水道の蛇口等強い水流	●空気ボンベを使用しないスキンダイビング	●スキュバーダイビング（空気ボンベ使用）	●水中でのりゅうず操作並びに水滴のついたままでのりゅうず操作
非防水	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示のない時計。	×	×	×	×	×
日常生活用防水	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示のある時計。	○	×	×	×	×
日常生活用強化防水Ⅰ	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示とともに裏ぶた又は、文字板に5BAR表示のある時計。	○	○	×	×	×
日常生活用強化防水Ⅱ	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示とともに裏ぶた又は、文字板に10BAR、15BAR又は20BAR表示のある時計。	○	○	○	×	×

※時計の文字板または裏ぶたにある防水性能表示をご確認の上、上記使用可能範囲にそって正しくご使用下さい。

⚠注意
④りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用下さい。りゅうずおよびボタンがねじロック式のものであれば、しっかり締め込まれているか確認して下さい。
⑤水中あるいは水分のついたままりゅうずおよびボタン操作しないで下さい。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
⑥非防水時計については、一時的にかかる水滴（洗顔時の水はね・雨など）や汗にはご注意下さい。万一、水や汗でぬれた場合には乾いた柔らかい布で水分を拭き取って下さい。
⑦日常生活用防水時計でも、勢いのある水道の水を直接あてるなどのことは避けて下さい。リミット以上の水圧がかかり防水不良となる場合があります。
⑧日常生活用強化防水時計の場合、海水に浸かった後は、ケースについた海水をよく洗い流し、洗った後はよく拭き取りサビなどが出ないようにして下さい。
⑨皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があり、脱色・接着はがれなどの不具合も起こすことがありますので、特に水の中で使う場合には、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上、ご使用下さい。
⑩時計内部には多少の湿気がありますので、外気が時計内部の温度より低いときにはガラス面がくもる場合があります。くもりが一時的の場合には内部に支障はありませんが、長時間消えない場合や時計内部に水分が入っている場合には、そのまま放置せず、お買い上げ店またはオリエント時計サービスセンターにご相談下さい。

（2）電池の取扱いについて

⚠警告
①電池は乳幼児の手が届かないところに保管して下さい。 万一、飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談下さい。
②取りだした電池は、火の中に捨てないで下さい。破裂する場合があります。
③充電用の電池ではありませんので、充電はできません。充電を行いますと発熱・破裂する場合がありますので、行わないで下さい。

（3）電池交換について

⚠注意
①電池が切れたままで長時間放置しますと漏液等により故障の原因となることがありますので、お早めに電池交換をして下さい。
②電池交換の際は必ず指定の電池をご使用下さい。
③電池交換は専用の工具・技術等を必要としますので、 お買い上げ店またはオリエント時計サービスセンターにお申しつけ下さい。
④電池交換をする場合には、電池の陽陰極性をまちがえて組み込むと発熱・破裂する場合がありますので、正しく行なって下さい。
⑤電池寿命切れ予告機能が付いています。
小秒針が1度に2目盛り送るようになると、電池寿命切れが間近であることを示しています。お早めにお買い上げ店で電池交換をご依頼下さい。
電池寿命切れ予告機能がはたらくと、アラームを設定してもアラーム音は鳴りませんが、故障ではありません。この場合でも時刻は正常です。
⑥電池交換後のお願い
電池交換後は、基本時計およびアラーム小時計の時刻合わせとストップウォッチ針の0位置合わせを行なって下さい。（→時刻合わせ・ストップウォッチ針の0位置合わせを 参照）

（4）ショックについて

①ゴルフなどの軽いスポーツによる影響はありませんが、激しいスポーツの場合は取り外して下さい。
②床面に落とすなど激しいショックは与えないで下さい。

（5）磁気について

①家庭用電気製品程度の磁気には心配ありません。

⚠注意
②磁石、磁気健康器具（肩こり治療器・腕輪など）、電気マージャン台などの強い磁気を発生するものには、近づけないで下さい。
③時計にANTIMAG.ⅠまたはANTIMAG.Ⅱと表示してある時計は磁気に耐えられる性質を強化してありますが、強い磁気を発生する器具に密着またはより近づけることはお避け下さい。
●ANTIMAG.Ⅰ… 4,800A/m（ 60ガウス）
●ANTIMAG.Ⅱ…16,000A/m（200ガウス）まで耐えられます。
④強い磁気を発生する所に長時間放置しますと部品が磁化して、故障の原因となることがありますので、ご注意下さい。
⑤磁気の影響を受けると一時的な進み遅れが生じることがありますが、磁気から遠ざけると元の精度で動きます。この場合は時刻を修正して下さい。

⑥発生する磁気の強さは表を参考にして下さい。

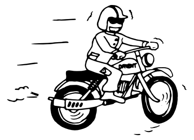
● 身の回りの磁気製品・電気製品の磁界の強さ

製　品　名	磁界の強さ（単位:A/m） 密着状態	判定 ANTIMAG Ⅰ	 ANTIMAG Ⅱ	磁界の強さ（単位:A/m） 5cm離れた状態	判定 ANTIMAG Ⅰ	 ANTIMAG Ⅱ
紙止め用磁石（DC）	23,900～71,600 （300～900ガウス）	×	×	200～1,200 （2.5～15ガウス）	○	○
テレビ（AC・DC）	500～1,200 （6～15ガウス）	○	○	0～400 （0～5ガウス）	○	○
冷蔵庫の開閉部磁石（DC）	31,800～63,700 （400～800ガウス）	×	×	400～3,200 （5～40ガウス）	○	○
電話機のスピーカー部（DC）	2,400～3,600 （30～45ガウス）	○	○	300～400 （4～5ガウス）	○	○
電気カミソリ（AC）	6,400～11,900 （80～150ガウス）	×	○	400～800 （4～10ガウス）	○	○
音響製品のスピーカー部（DC）	600～20,000 （8～250ガウス）	△	△	0～3,200 （0～40ガウス）	○	○
各種家具の開閉部磁石（DC）	47,800～63,700 （600～800ガウス）	×	×	800～1,200 （10～15ガウス）	○	○
磁気パッド（DC）	47,800～119,400 （600～1,500ガウス）	×	×	0 （0ガウス）	○	○
磁気ネックレス（DC）	63,700～95,500 （800～1200ガウス）	×	×	40～80 （0.5～1ガウス）	○	○
ハンドバッグの開閉部磁石（DC）	28,700～63,700 （360～800ガウス）	×	×	0～240 （0～3ガウス）	○	○

※ 判定の ○ は影響無し、× は影響有り、△ は製品・機種によって異なります。
※ 上表の数値は目安です。磁界の強さは磁気製品・電気製品の機種により強弱が異なります。
※ 磁界の強さは距離の二乗に反比例しますので、密着状態と少し離れた状態でその数値は大きく異なります。

（6）振動について

オートバイ、削岩機、チェーンソーなどの強い振動が加えられますと、一時的に遅れる場合があります。



（7）温度について

①直射日光にあたるところや高温になるところに長時間置かないで下さい。
②寒いところに長時間置かないで下さい。
③製品仕様の作動温度範囲外の環境下で長時間放置しますと、止まり・遅れの原因になりますので、ご注意下さい。
④クオーツ時計は常温（+5°c～+35°c）で腕につけた状態の時に安定した精度が得られるように調整してありますので、腕から外したままにしておきますと、多少の進み遅れが生じることがあります。

かぶれやアレルギーについて

（8）化学薬品・ガスなどについて

ガス、水銀、化学薬品など（シンナー・ガソリン・各種溶剤、またはそれらを含むクリーナー・接着剤・塗料・薬品・香水・化粧品類）が触れるとケース、バンド、文字板の変色や樹脂部品では、変色、変形、破損する場合がありますので十分ご注意下さい。

（9）付属部品について

⚠警告
バンドのピン等は乳幼児の手の届かないところに保管して下さい。万一、飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談下さい。

（10）高温下での使用

⚠注意
サウナなどの高温下での装着は、火ぶくれ（火傷）になる可能性がありますので、ご使用をお避け下さい。

⚠注意
体質により皮革・金属・軟質および硬質プラスチックなどにて皮膚がかぶれたり、肌に異常が認められたときは、直ちにご使用を中止し、専門医にご相談下さい。

ルミナスライトについて

商品によっては、針・文字板等にルミナスライトを使用しているものがあります。
ルミナスライトは放射性物質を含まない安全な蓄光塗料（光を蓄えて発光する塗料）です。太陽光や照明光等の光を塗料に蓄えて発光します。
なお、蓄えた光を発光させていますので、輝度（明るさ）は時間の経過とともにだんだん弱まってきます。
また、光を蓄える際、ガラスの形状・蓄光材の厚み・まわりの明るさ・時計との距離・光の吸収度合などの諸条件により、発光の強さや時間には誤差を生じます。光の蓄え方が弱い場合、発光が弱かったり発光時間が短いことがありますのでご注意ください。

耐水処理バンドについて

商品によっては、汗や水に触れても吸収しにくい特殊な処理を施した皮革・ナイロンバンドを使用しているものがあります。このバンドの耐水性は使用期間・使用条件により、効果が劣化しますのでご了承下さい。

銀製品について

商品によってはケース・バンドが銀および銀メッキのものがあります。銀の性質として、酸化物・硫化物（空気中や人体老廃物など、身の回りに多く存在します）と反応して表面の色具合が黒く変色します。このような場合は、銀製品用クロスで拭いて下さい。元の色具合に戻ります。

長くご愛用いただくために

⚠注意

(1) ケース・バンドのお手入れ
①ケース・バンドなどに付着した汚れや水分は時計機能を損なったり、皮膚の弱い方のかぶれ・衣服の袖口を汚す原因となる場合があります。末永くご使用いただくために柔らかい布などで拭き常に清潔にしてお使い下さい。特にバンドは肌着類と同様、直接肌に接していますので、定期的に次の方法で汚れを取りご使用下さい。
【ケース】
汚れを柔らかい布などで拭き取って下さい。薬品などは変色の原因となりますので、使用しないで下さい。
【金属バンド】
石鹸水を付けた柔らかい歯ブラシで部分洗いをして下さい。このとき、非防水時計は水がケースにかからないように注意して下さい。汚れたままにしておきますと腐食・サビの原因ともなります。
【皮革バンド】
乾いた柔らかい布で、水分・汚れを取り除いて下さい。こすると、色落ちすることがありますので注意して下さい。
【軟質プラスチックバンド】
ウレタン・ナイロンなどのバンドは特に手入れの必要はありませんが、汚れがひどくなりますと皮膚がかぶれたりする場合がありますので、時々石鹸水または水で洗って下さい。薬品などは変質の原因となりますのでご使用にならないで下さい。また使用期間によっては、材質が硬くなり、折れたり割れたりする場合がありますので、その際は新しいバンドと交換して下さい。
②ケースおよびバンドに水銀（体温計など）・薬品などが付着すると変色する場合がありますのでご注意下さい。
③バンドは指1本が入る程度の余裕を持たせ通気性をよくしてご使用下さい。また、皮革バンドは高温多湿になる場所での保管は避けて下さい。
④ケースとバンドとの接合部や金属バンドの駒の接合部に使用しているピンが錆びると、バンドが外れたり時計が脱落したり、稀に怪我をすることがありますのでご注意ください。
(2) 回転ベゼルのお手入れ
回転ベゼル付きの商品はベゼルの下に汚れなどがたまり、機能が損なわれる場合がありますので、柔らかい歯ブラシで汚れを落とし清潔にしておいて下さい。
(3) 点検のおすすめ
①電池交換時または2～3年に1度の点検をおすすめします。電池の漏液・汗・水分侵入の有無などお買い上げ店またはオリエント時計サービスセンターにお申しつけ下さい。点検の結果によっては調整・修理を必要とする場合があります。
②定期点検をする際は、防水性能を保つために、パッキン等の交換をおすすめします。また、ばね棒も必要に応じて交換して下さい。
③部品交換のときは「純正部品」とご指定下さい。

保証とサービスについて

※保証書は必ずお読みください。
1.保証について
本製品が保証期間内に取扱説明書にそった正常なご使用状態で、万一故障が生じた場合には、保証書に従い無償で修理・調整致します。保証書を添えてお買い上げ店またはオリエント時計サービスセンターにお持ち下さい。保証内容は保証書に記載されていますので必ずお読み下さい。
2.補修用部品の保有期間について
この時計の補修用性能部品の保有期間は、生産終了後、通常7年間を基準としています。
*補修用部品とは
製品（時計）内部の時間機能のための機械体（ムーブメント）の部品です。
ケース・ガラス・文字板・針・バンド・りゅうずなど製品の機能維持と直接関係ない外装部品は含まれていません。これらの外装部品は、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承下さい。
4.ご転居・ご贈答品の場合
ご転居・ご贈答品などで、お買い上げ店が遠隔地となり保証サービスが受けられない場合には近くの当社サービスセンターにご相談下さい。
5.電池について
①この時計の電池寿命は新しい電池を組み込んでから約3年間です。ただし、ストップウォッチを1日2時間、アラーム音を1日20秒以内を基準としていますので、それ以上使用した場合は上記期間に満たないうちに電池が切　れる場合があります。
②お買い上げ時の時計に組み込まれている電池はモニター用電池です。モニター用電池とは時計性能・機能を確認するため、工場出荷時に組み込まれる電池で、お買い上げ時から所定の電池寿命を満たさないうちに寿命が切れる場合があります。
尚、モニター用電池は時計の価格にふくまれていませんので、電池が切れた場合、保証期間内であっても電池交換は有料となります。
6.商品に関するお問い合わせについて
商品に関するお問い合わせは、お客様相談室へお問い合わせ下さい。
7.その他のお問い合わせについて
その他の保証サービスについてご不明の点がありましたら、お近くの当社サービスセンターへお問い合わせ下さい。